

3-2 松本城の城主（1） 石川数正・康長

近世松本城の天守3棟を建てた石川数正・康長についてお尋ねします。

1 石川数正が実際に行なわなかったことはどれでしょう

③ 永禄6年(1563)三河一向一揆が起こったとき一族とは行動を別にし、浄土真宗(一向宗)から浄土宗に転宗して家康につかえた。



● 西三河で家康と戦った一向一揆で、浄土真宗から改宗して

家康従った武士も多かったが、石川・本多・鳥居しは一族が敵味方に分裂した。この時改宗して家康に従ったのは石川家成で西三河の旗頭として一揆を鎮圧の指揮をとった。永禄 12 年甥の石川数正に西三河の旗頭の地位を譲った。したがって改宗して家康に従ったのは石川家成。

2 石川数正は徳川家康の老臣でした。1585年突然岡崎城を出奔して秀吉の下に走ります。その理由は明らかになっていませんが、徳川方のネゴシエーター(交渉人)であった数正が秀吉にヘッドハンティングされたものと考えられています。この数正が和平交渉を担当した。秀吉对家康の戦いをなんと呼ぶでしょう。

③ 小牧・長久手の戦い

● 天正 12 年(1584)秀吉と織田信雄・家康とが尾張小牧・長久手及び伊勢国内で展開した戦い。家康が秀吉側の堀秀政大敗、森長可・池田勝入父子の戦死、秀次を敗走させた。伊勢方面では秀吉軍が優勢であった。この講和の際徳川方の交渉人が石川数正である。講和交渉はなが長引き、数正は秀吉方との和睦をすすめたが徳川方はなかなかこれをうけいれなかった。この交渉の間に数正は秀吉にヘッドハンティングされたとみられている。

3 数正が秀吉側に出奔した直後家康側がまず行なった対応はなにか。

② 三河国の防備を固め、徳川軍のしくみを大幅に変更した。

● 数正の出奔は家康家臣団を動揺させすぐさま臨戦態勢に入った。徳川方の軍制と軍事機密が秀吉側に筒抜けになる恐れがあった。そのため直ちに軍制の改革をおこなった。数正の出奔の理由は明確にされていないが、数正は家康の使者として秀吉のもとに度々、派遣されており、対秀吉和平論者であったため、強硬論者の多い家康家臣団の中で孤立を深め出奔したと考えられている。

4 数正は秀吉から1584年に10万石の所領を与えられ厚遇されたと伝えられています。その所領のあった国は何処でしょう

② 和泉国 ● 天正 14 年正月和泉国 10 万石を与えられ、九州征伐・小田原に戦いに従軍とされるが和泉国のどの場所か等不詳。

5 1590年秀吉の命で数正は家康を監視する任を負って8万石で松本へ入封します。1590年秀吉が天下を握った戦いをなんといいましょう。

③小田原の戦い

●天正18年(1590)秀吉は諸大名を動員して小田原城の北条氏政・氏直を攻め、7月これを滅ぼした。8月には会津城に入り、関東・奥羽の大名領知を確定した。家康の関東移封に代表される大規模な大名の移動を実施し天下統一を終えた。

6 石川数正は最近の研究では天正18年(1590)8月末には松本に入部しています。石川数正が松本で最初に行なったことはなんですか。

③寺社に制札を掲げた

●正麟寺には天正18年8月26日。長興寺(塩尻市)には天正18年18年8月晦日大澤寺・成就院(大町市)には同年9月4日である。いずれも数正の花押をすえた判物として出されている。禁令を掲げることで在地の人々の信仰厚い寺院を保護し、寺領を安堵し人心を掌握しようとしている。

7 1591年3月秀吉の朝鮮出兵にともない、数正は3月、500騎を率いて肥前名護屋に出陣したと、同年12月14日数正の葬儀が京都七条河原で行われたことが山科言経の「言経卿記」という日記に書かれています。この日記から数正の「文禄元年死去」が裏付けられました。これを書いた言経の身分はつぎのうちどれでしょう。

③京都の公家 ●安土桃山時代から江戸初期の公家1576から1606の日記が「言経卿記」である。

8 石川康長(三長・光長)は父の遺志を継いで秀吉側の城として天守3棟を建てますが、康長は関ヶ原の戦いでは西軍・東軍どちらに属しましたか。

②東軍(家康方) ●1600年の関ヶ原の戦いでは東軍に属し、上田の真田氏の砦である冠ヶ岳(かじやがたけ)の砦を攻めている。

9 慶長18年(1613)石川康長は大久保長安事件に連座して改易され、豊後佐伯に配流されます。康長改易の理由について民間では色々伝承されていますが、言い伝えにないものはどれでしょう。

①大久保長安と闘って将軍を暗殺しようとした。

10 右の仏像は佐伯に配流された石川康長が日夜拝んでいた「阿彌陀如来立像」です。昭和46(1971)年11月九州福岡の古川家より358年ぶりに松本に戻った仏像です。この仏像は現在博物館に収蔵されていますがなんと呼ばれているでしょう。

①石川康長公念持仏

●石川康長は寛永19年12月11日没。佐伯法輪山善教寺に葬る。康長は氏の直前、この念持仏を毛利家用人伊沢六右衛門に与え、後、縁者古川家に伝来し、昭和46年11月4日松本市に譲渡された。

